

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➢ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➢ 会員寄稿記事	3
➢ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

第 15 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラムのご案内 (8月21日@東京)

JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)の今年の国際フォーラム開催まで、1 カ月を切りました。

今年の“ARRN 国際フォーラム 2018”は、8月中旬に東京で開催される第 12 回生態水理学国際シンポジウム (12th International Symposium on Ecohydraulics: ISE2018) の特別セッション “**River Restoration**

Methodology contributing to the Formation of Ecological Network” (Special Session 32、以下 SS32) として、応用生態工学会と共催で日本大学工学部駿河台キャンパスにて開催します。

本セッションでは、生態系ネットワークの形成に寄与する水辺・流域再生に関連する国内外の専門家による 12 本の研究発表を予定しています。参加国それぞれの水辺・流域再生に関する最新情報や課題等の発表を通じ、より一層、技術の交流・向上を図ることが期待されます。

第 12 回生態水理学国際シンポジウム (ISE2018)

- 開催期間 2018年8月19日(日)～24日(金)
 - 場所 日本大学工学部駿河台キャンパス
 - ウェブページ (英語) <http://ise2018.com/>
- ※本行事の参加には登録が必要です。

また、国際フォーラムと合わせて、ARRN 運営会議や河川の現地視察も行う予定ですので、これらの行事の報告は、後日、ニュースレターやホームページにてご報告差し上げます。

第15回ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 概要

- (1) 日時: 2018年8月21日 (火) 14:00-17:30
- (2) 場所: 日本大学工学部駿河台キャンパス 1号館151教室
- (3) 主催: 応用生態工学会 (ECES) アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
- (4) テーマ: River Restoration Methodology contributing to the Formation of Ecological Network
- (5) プログラム:

- 14:00-14:10 開会挨拶・来賓挨拶
- 14:10-15:40 研究発表【1】計6 発表
- 16:00-17:30 研究発表【2】計6 発表

<コーディネーター>

Chair: 根岸淳二郎

(北海道大学、前・応用生態工学会国際交流委員長)

Co-chair: Suk Hwan Jang

(韓国 Daejin 大学、前 ARRN 会長)

※本フォーラムのみに参加の場合も、8/21 (火) の ISE2018 参加登録手続きが必要となります。(有料)

※「第 15 回 ARRN 国際フォーラム」詳細は下記参照 (英語版案内チラシ等)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/915.html>

(JRRN 事務局・佐治史)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生」交流会（仮称） 開催予告@兵庫・神戸

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。先月号でもご案内しましたとおり、今年度は、「小さな自然再生」の普及促進活動の5年の節目として、これまでの取組みをレビューするとともに、今後の活動の方向性を定める1年にしたいと考え、サミット（交流会）の開催やデータベース制作などの新たな企画を立ち上げを「小さな自然再生」研究会メンバーとともに調整を進めています。

ここでは、「小さな自然再生」交流会（仮称）の開催予告として、現時点で決まっている開催日や開催場所などについて事前にご案内させていただきます。

交流会のプログラム詳細や事例発表＆参加申込方法は、9～10月頃に改めてご案内差し上げます。また、1/27（木）午後には交流会のサイドイベント（iRIC 講習会）も企画中ですので合わせてご案内致します。

なお、本活動は（公財）河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

「小さな自然再生」交流会（仮称）

- 日時：平成31年1月26日（土）13:00～18:00（交流会）
27日（木）9:00～11:00（現地視察@住吉川）

- 主催：「小さな自然再生」研究会

- 会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO） 1F ギャラリーA
（兵庫県神戸市中央区小野浜町 1-4）

- 参加費：無料（懇親会費は別）

- プログラム（予定）：

1月26日（土）交流会

10:00 開場（展示等の準備、参加者交流 ※自由来場）

13:00 交流会 開会

小さな自然再生の取組レビュー、全国事例発表、意見交換

18:00 交流会 閉会

18:30 懇親会 開会（～20時@同会場）

1月27日（日）AM 現地視察

9:00 住吉川現地集合

住吉川現地視察

11:00 現地解散

1月27日（日）PM サイドイベント

13:00 KIITO 3F 301 会議室集合

iRICで学ぶ小さな自然再生講習会（案）

15:00 閉会



住吉川（水辺の小わざ魚道）

参照：水辺の小さな自然再生事例集 56 頁

8月



(http://photohito.com/photo/3200463/ より引用)



あの日のあの川 リレー日記 ～第39話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第39話主人公 芦沢龍太郎

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：静岡県安倍川)

「川とともに生きる」

いつのこと？： 幼少期～現在

どこの川？： 安倍川

この記事の寄稿を依頼されたとき、一番初めに頭に浮かんだのが故郷静岡県の安倍川だった。私は大学生になって静岡県を離れるまでの18年間安倍川のほとりに住んでいたため、安倍川はまさに生活の一部だった。そこで安倍川にまつわる自分の体験に関して、曖昧な記憶を頼りに時系列順に記してみたいと思う。



安倍川橋

幼少期は休日になれば祖父母と安倍川の河川敷に散歩に行っていた覚えがある。特に目的があったわけではなかったと思うが、河川敷で練習している地元の少年野球チームを横目に土手を歩いていたことを覚えている。静岡県の川沿いに家があるという前情報のみで想像がついてしまうかもしれないが、私の実家はかなりの田舎にある。この年になれば実家から数十分車を走らせて近くのショッピングモールや娯楽施設に行くのは簡単だが、当時の自分にとって実家の周りには遊ぶ場所など存在せず、大人を引き連れて川に行くしかなかったのである。余談では

あるが、実家から市街地に出るには安倍川橋という橋（前頁の写真参照）を通る必要があったため、当時の私の脳内では「安倍川を渡る＝楽しいところにお出かけをする」という構図が成立していたのを鮮明に覚えている。そして帰省時車で安倍川橋を通るたびにそのことを思い出すのである。

小学生の私にとっては、安倍川は忌むべき場所であった。毎年安倍川の河川敷で小学校の持久走大会が行われていたためである。当時から運動があまり得意でなかった私は、持久走大会の日が近づくと「安倍川が氾濫して持久走大会が中止にならないかなあ…」と思っていたのを覚えている。幼少期の話とはいえ、現在河川氾濫発生時の住民の避難に関して卒業論文を書いている人間が決して抱いてはならない思考である。



安倍川花火大会の様子

(http://www.city.shizuoka.jp/000_007547.html より引用)

中学生以降は部活や勉強で忙しくなったこともあり、川と触れ合う機会は目に見えて減っていった。休日に友人と遊ぶときはもっぱら家の中でゲームであり、もはや川で遊ぶことなどなかった。しかし年に一度、自分を含め静岡県内の老若男女が安倍川周辺に集まるイベントがあった。安倍川花火大会である。時には家族と、時には部活の友人と、そして時には当時付き合っていた人と、相手は違えど毎年毎年飽きもせず花火大会に行っていた。思い返せば、成長してから目的をもって安倍川に行くのは、年に一度、この安倍川花火大会の時だけだったかもしれない。自分と安倍川とのつながりがずっと途切れなかったのも、このイベントのおかげだと言えるだろう。ちなみに 2018 年の安倍川花火大会は 7 月 28 日に開催予定だったが、台風 12 号の接近により中止になってしまった。来年以降は無事に開催されることを切に願っている。

大学生になって静岡県を離れている現在の私にとっては、安倍川は故郷のランドマーク的な存在になっている。富士山を見て静岡県に帰ってきたことを実感し、安倍川を見て実家に帰ってきたことを感じるのである。私は大学を卒業した後静岡県に帰る予定であるため、今後も何かしらの形で安倍川とはかかわっていくことになるだろう。就職し、結婚し、子供ができ…そのたびに安倍川が自分にとってどのような存在に変容していくのが今からとても楽しみである。



安倍川と安倍川橋と富士山

(<https://yosihisa.exblog.jp/13876099/> より引用)

(次号は 10 月号にて芝越さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.111

岡村幸二 (JRRN 会員)

亀島川の緑化整備： 大都会でも静かな水辺空間にビル建築と調和する水際植栽



撮影：2018年7月（東京都中央区・亀島川）

◆低平地でも高い堤防が見られない

亀島川の増水時には、日本橋水門と亀島川水門が閉鎖されて茅場町及び新川地域住民の生命・財産が守られます。この区間は高潮堤防がなく、下流域では珍しく堤防の目立たない河川景観です。

◆水際に蛇籠を用いた植栽護岸

亀島川の水際線は、数年前からコンクリート護岸の水際に蛇籠を用いた水性植物を連続的に配置し、護岸テラスには花壇を、護岸壁面にはつる性植物を組み合わせる緑化工事を行いました。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

河川書の探求(4)

激甚化する水害・土砂災害

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)



1. 激甚化する水害・土砂災害

近年、地球温暖化の影響であろうか、線状降水帯による大雨で、大規模な水害、土砂災害が起こり人々の生活を襲っている。今夏平成 30 年 7 月 6 日からの梅雨前線が長い間停滞し、広島県、岡山県、愛媛県などに多大な被害を及ぼした。死者 225 人行方不明 12 人(7 月 19 日現在)をだした。河川の決壊、家屋の損壊、道路、橋、鉄道などの損壊で生活や企業の活動に支障をきたしている。

気候変動による水害研究会著『激甚化する水害』(日経 BP 社・2018 年)から、最近の風水害を追ってみる。

- ① 2017 年 7 月の九州北部豪雨は、梅雨前線により、筑後川水系の中小河川が氾濫・土砂崩れによって、福岡県朝倉市・東峰村・大分県日田市において、死者 40 人・行方不明者 2 人がでた。線状降水帯が形成され、大量の雨を降らし、表層崩壊が各所で起こり、水害と土砂と流木による三重被害で大災害を招いた。
- ② 2016 年 8 月の北海道・東北豪雨災害は、台風 7 号、9 号、台 10 号、11 号により、石狩川水系空知川、岩手

- 県岩泉町小本川などの氾濫によって、北海道死者 2 人、岩手県死者 20 人がでた。空知川上流(南富良野町)では、堤防が決壊し、家屋が倒壊した。道央、道東を結ぶ国道や鉄道のライフラインは至る所で寸断された。小本川沿いのグループホームの高齢者の利用者が亡くなった。
- ③ 2015 年 9 月の台風 18 号・その後変化した低気圧により、鬼怒川・渋井川などが氾濫によって、死者 8 人がでた。鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市域の 3 分の 1 に当たる 40km² が浸水。市役所をはじめ多くの建物が倒壊・孤立した。浸水が解消するまでにおおよそ 10 日間を要した。
 - ④ 2014 年 8 月 19 日から 20 日未明にかけて、線状降水帯により、広島市安佐南区、安佐北区などでは土砂災害が起こり、死者 76 人、負傷者 46 人を出した。土砂災害のリスクがあるにもかかわらず、山麓斜面に広がった住宅地に土石流が襲った。
 - ⑤ 2013 年 10 月の台風 26 号により、伊豆大島で土砂災害が起こり、死者 36 人がでた。台風 26 号は、伊豆大島に連続 800mm を超える豪雨に、土砂とともに大量の流木が流れ下り、大災害を及ぼした。
 - ⑥ 2013 年 9 月の台風 18 号により、由良川、桂川が氾濫し、死者 6 人がでた。京都府福知山市の由良川上流域では、400mm を超える豪雨によって、由良川の水位は、2004 年の台風 23 号による出水を上回る観測史上最高を記録し、死者がでた。
 - ⑦ 2012 年 7 月の前線により、矢部川、白川、山国川、などに氾濫が起こり、死者 30 人がでた。福岡県矢部川では、本川決壊に加え、支川沖端川の決壊や内水の氾濫により浸水面積 257ha、浸水家屋 1870 戸となる被害が発生した。
 - ⑧ 2011 年 8 月の台風 12 号により、熊野川の氾濫により、紀伊半島などに死者 82 人がでた。
 - ⑨ 2011 年 7 月の前線により、只見川などが氾濫し、死者 4 人がでた。

以上のように、毎年のように、豪雨に伴う土砂崩れ、流木により、人的、物的被害を及ぼしている。

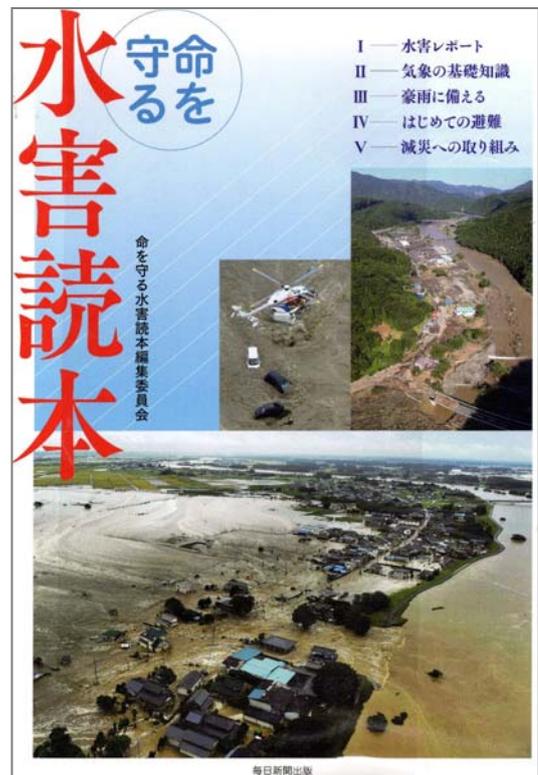
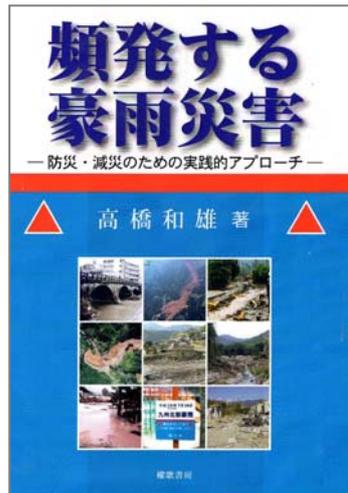
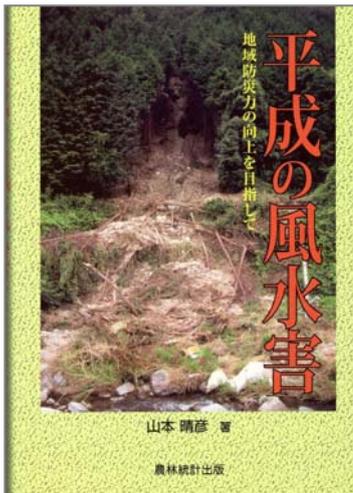
2. 平成の風水害

山本晴彦著『平成の風水害』(農林統計出版・2004年)には、2003年9月の台風14号による宮古島の強風災害、2006年11月の北海道佐呂間町の竜巻災害、1999年6月の福岡・広島の前線による土砂災害、1999年8月の熱帯低気圧による神奈川県玄倉川水害、2005年9月の台風14号に山口県の錦川水害、2009年8月の台風9号による兵庫県伊用町の千種川、その支流作用川の水害などについて、気象データを駆使して分析している。

高橋和雄著『頻発する豪雨災害』(権歌書房・2017年)は、1982年長崎豪雨災害から2014年の土砂災害まで、長崎市、鹿児島市、出水市、水俣市、防府市、萩市、広島市などで、土砂災害を伴う調査研究を行い、その対応を追求している。この書に挙げられている災害調査は、1993年鹿児島豪雨災害、1997年出水市土石流災害、2003年水俣市土石流災害、土砂災害雨量情報の定着化に向けて、2009年防府市土石流災害、2013年山口・島根豪雨災害における初動体制の課題、2014年広島土砂災害と防災対策の課題から構成されている。著者は、地域防対策として、避難対策、情報伝達、防災マップなども重要視している。

定の被害を受け入れ、ソフトウェアやヒューマンウェアの整備により、災害時の避難を徹底させ、生命だけは守る。自然外力の上昇や抵抗力の低下等により、想定外の大災害が起こるレベルでは、被災頻度の高い地域から移転したり、流域の土地利用全体を再構築する。

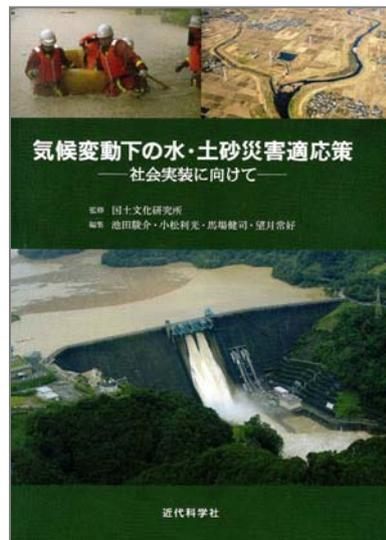
戦後、高度経済成長に伴い、水田や低地や急傾斜地などに都市が形成された。水田埋められ、山麓には開発され住宅が立ち並び、日本の国土が変貌した。高橋裕著『国土の変貌と水害』(岩波新書・1971年)では、水害は豪雨による自然的災害と都市の変貌による社会的災害があると、以前から強く指摘されている。現在でも都市政策が重要な課題となっていると、言える。



3. 減災の取り組み

頻繁に起こる水害・土砂災害からいかに命を守るかが、一番の課題である。命を守る水害読本編集委員会編『命を守る水害読本』(毎日新聞出版・2017年)では、水害のメカニズムについて、内水か外水氾濫かを把握しておき、どこへ避難する所を家族一人一人が認識しておく必要がある。とにかく早め早めに躊躇なく避難する事である。行政側は、空振りになってもいいから、避難勧告を早めに発信することである。

池田駿介編ら『気候変動下の水・土砂災害適応策』(近代科学社・2016年)では、水害を3つのレベル区分し、その適応策を捉える。従来の水害では、ハードウェアを中心に、ソフトウェアを効果的に運用し生命や財産を守る。気候変動による自然外力の上昇により、ゼロリスクを守りきれない状況では、一



会議・イベント案内 (2018年8月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 日本水環境学会市民セミナー：豊かな里海の創生～沿岸域と河川流域の関係～

- 日時：2018年8月3日(金) 10:50～16:30
 - 主催：(公社)日本水環境学会
 - 場所：東京会場：地球環境カレッジホール(世田谷区)
大阪会場：いであ(株)大阪支社ホール(大阪市住之江区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2808.html>

■ 第1回「柳川掘割ウナギ円卓会議」

- 日時：2018年8月18日(土) 17:00～19:30
 - 主催：NPO法人「SPERA 森里海・時代を拓く」
 - 場所：柳川市立図書館アメンボセンター(福岡県柳川市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2803.html>

■ 第32回 筑後川フェスティバル in ひた

- 日時：2018年8月25日(土)、26日(日)
 - 主催：第32回筑後川フェスティバル in 日田実行委員会
 - 場所：三隈川・亀山公園周辺(大分県日田市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2801.html>

■ 2018年アユ漁体験と魚釣りイベント(全3回)

- 日時：2018年8月11日(土)、8月19日(日)、
9月9日(日)
 - 主催：NPO法人荒川流域ネットワーク
 - 場所：都幾川、高麗川、越辺川(埼玉県内)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3135.html>

■ 第15回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

- 日時：2018年8月21日(火) 14:00～17:30
 - 主催：応用生態工学会、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
 - 場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/915.html>

■ 第8回マザーレイクフォーラムびわこコミ会議 2018

- 日時：2018年8月26日(日) 10:00～16:30
 - 主催：マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県
 - 場所：コラボしが21(滋賀県大津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2771.html>

■ 第11回いい川・いい川づくりワークショップ

- 日時：2018年9月8日(土)～9日(日)
 - 主催：いい川・いい川づくり実行委員会
 - 場所：帯広畜産大学(北海道帯広市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2793.html>

■ ワークショップ「土砂流動を考慮した河川計画について」

- 日時：2018年9月11日(火) 13:30-17:00
 - 主催：土木学会水工学委員会
 - 場所：主婦会館プラザエフ 7Fカトリア(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2799.html>

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

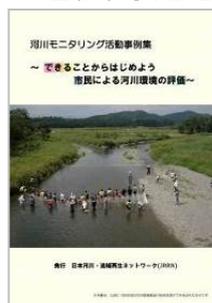
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発行)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)
Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

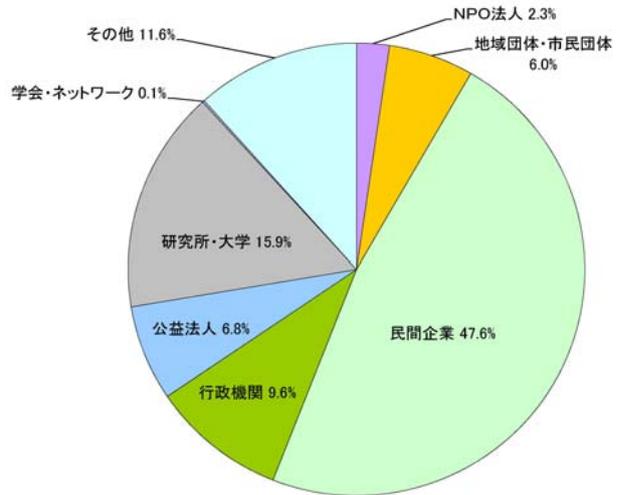
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年7月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：783名、団体会員数：60団体)
※7月の新規入会数：個人会員3、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

